



▲CMの1シーン「三種町が、大好きだ。」

審査員特別賞を受賞

あきたふるさと手作りCM大賞
 11月22日、県児童会館において、第18回あきたふるさと手作りCM大賞の審査会が行われ、県内19市町村が出品したCMの出来栄を競いました。
 今年は八竜中学校の「八竜ふるさと創生活動」の一環として作成され、校内での審査会を経て、3年生の作品が出品されました。
 審査会には、八竜中学校を代表して佐々木陸仁さん（3年）が参加し、結果は審査員特別賞に輝き、年間60本のCMが放送されます。



▲真剣に取り組む施設職員

感染症拡大に備えて！ 出前ワークショップ

11月28日、養護老人ホームやまもとにおいて新型コロナウイルス感染症対策出前ワークショップが行われました。
 このワークショップは、県と県医師会が共同で実施したもので、施設内で新型コロナウイルスの感染が確認された場合の対策について講義と実技が行われました。
 講義では、森岳温泉病院の島田薫院長を講師として、基本的な知識の講義や施設内の見取り図を使ったグループワークが行われ、職員は感染時の対策について考えました。また、実技では、防護服や保護具の着脱の仕方を学びました。
 伊藤誠施設長は「現在の対策で十分なのか検証し、実効性のある対策に役立てたい」と話しました。



▲地域の子どものためにがんばります！

継続した活動が認められ受賞 みたねこどもまつり実行委員会

12月9日、山本地域振興局において元気なふるさと秋田づくり顕彰の表彰式が行われ、みたねこどもまつり実行委員会が表彰されました。
 同実行委員会は、平成26年から琴丘こどもまつり実行委員会として活動をはじめ、同年5月に第1回目の琴丘こどもまつりを開催しました。平成30年からみたねこどもまつりとして、地域の輪を広げようと活動を拡大しました。
 表彰にあたって畠山慶太委員長は「身近にある地域の魅力を、子どもたちにしっかり伝えることを心がけて、地域を活気づかせる活動となれるよう、今後がんばります」と新たな決意を語りました。



▲地域の未来を考えて報告します

鹿渡地区の未来を考えて！ ワークショップ報告会

12月12日、琴丘地域拠点センターにおいて、県が主催するコミュニティ生活圏形成事業のモデル地区に選定されている鹿渡地区の報告会が行われました。
 事業では、9月と11月にワークショップを開き、地区の課題などについて意見を交わしました。
 この日の報告では、多世代が集い交流できる場の創出や集落の枠組みにとらわれないコミュニティづくりなどが挙げられました。
 講師を務めた一般社団法人持続可能な地域社会総合研究所の藤山浩所長は、「人口は人生の数そのもの。持続可能な地域社会が次の世代に伝わるように取り組まなければならぬ」と呼びかけました。